

◆自然科学の最前線

講座番号 ③-8

主 題 最先端の科学の光を当てて得られた、岡山大学発の注目の研究成果を楽しんで下さい。山々の樹木の生態、ナノテクノロジーにより解明された顔料（ベンガラ）や焼き物（備前焼）の発色、酵素を用いた食品生産などの最前線、ノーベル賞の対象になったiPS細胞のがん治療への応用について分かり易くお話しします。

時 間：午後6時30分～8時30分
場 所：築地社会教育会館
回 数：4回
受講料：1,200円
定 員：60名

回数	日 程	講 義 内 容	講 師 名
第1回	11/ 8 (金)	多様な木と森	山本 進一
第2回	11/15 (金)	備前焼の緋襷模様と備中吹屋ベンガラの赤色に潜むナノの世界	高田 潤
第3回	11/22 (金)	日本が世界に誇る発酵技術による『もの作り』	神崎 浩
第4回	11/29 (金)	iPS細胞から作るがん幹細胞	妹尾 昌治

講 師 紹 介

山本 進一 (やまもと しんいち)

岡山大学理事（研究担当）・副学長。1952年生まれ。1984年5月京都大学大学院農学研究科博士課程修了。林学、林学・森林工学などの分野で、統計学や分子生体遺伝学などの手法を用いて、森林生態系の維持機構、森林現象の動態などについて研究を行っている。

高田 潤 (たかだ じゅん)

岡山大学大学院自然科学研究科教授。1947年生まれ。1975年3月京都大学大学院工学研究科博士課程単位取得。ナノスケールでの制御技術を駆使することにより、機能性に優れた新しいセラミックス材料の開発や、古代遺跡出土ベンガラなどについての研究を行う。微生物が作るナノ構造の酸化鉄が、リチウムイオン電池の電極などに優れた性能を持ちうることを発見した。2012年度岡山県文化賞。

神崎 浩 (かざき ひろし)

岡山大学大学院環境生命科学研究科教授。1959年生まれ。1986年3月京都大学大学院農学研究科博士課程修了。酵素を用いた有用物質の生産、植物の形質変換に有用な天然有機化合物などについて研究を行っている。岡山大学農場産の米で醸造した清酒「おお岡大」ブランド作りを推進。

妹尾 昌治 (せのお まさはる)

岡山大学大学院自然科学研究科教授。1956年生まれ。1981年3月大阪大学基礎工学部卒。がん治療におけるドラッグデリバリーシステムの研究に従事。2012年にiPS細胞を使って、がん細胞を生み出す元とされる「がん幹細胞」のモデル作成に世界で初めて成功し、注目を浴びる。



岡山大学